



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第四十号〜

立秋

八月七日



ゆりの会

かの弥次喜多道中『東海道中膝栗毛』は、第五編が伊勢参り編。「川崎音頭（伊勢音頭のこと）に、伊勢の山田とうたひしは」と始まります。いかに伊勢音頭が知られていたかが伺えますが、内宮前の宇治地区にも伊勢音頭を継承する人々がいらつしやいます。民謡踊りのグループ「ゆりの会」です。

「ゆりの会」は、平成三年に宇治地区の女性たちが中心となって結成し、十七年になります。多い時には五十人ほどが名を連ねましたが、今は二十二人が毎週一回、代表の長田さんのもと、宇治公民館で練習を行っています。女性ばかりの会ということもあって、皆で朝日参りをして朝粥を食べるなど、和気あいあいとした雰囲気です。婦人会のない宇治地区にとっては、婦人会がわりに頼りにされることも多いといえます。

メンバーの方によると、伊勢音頭の振り付けには意味があるのだそうです。宇治では、五十鈴川の石をはじめ、玉砂利を歩いて、両手を挙げてお供えし、拝む。片手を上へ挙げて天の神さまを、手を下げて地の神さまを指す、などです。ハワイの民族舞踊、フラダンスでは手足や腰の動きで、波、鳥、太陽などを表現することは知られていますが、伊勢音頭も伊勢参りの所作を表していたのでした。

宇治地区の氏神、宇治神社の会式は八月二十一日。そこでもゆりの会が活躍します。近郊からも民謡踊りの愛好家らが集まり、百人以上を数えるほど。三重の輪を作り、伊勢音頭を踊る熱気に包まれる会式の夜。観光客の知らない内宮前のお祭りです。

文 千種清美

